

# 中古消防車・救急車援助事業報告書

平成 17 年度

—パラグアイ共和国—

イスラ・ウンブ市



1999 年に日本から寄贈した救急車。  
セントラル県の消防隊で今も大切に使われています。(1991 年製)

平成 18 年 11 月

社団法人 日本外交協会

## 1. 本事業の趣旨

日本において、救急自動車・消防自動車・塵芥収集車といった特殊自動車は、自治体の管理下で所有・利用され、一定期間の後に廃棄される。ただし、処分直前までは予備車として、各消防本部や各自治体にて整備された状態で保管されているのが通常である。日本国内で使用し続けることが困難になった中古車両でも、使用中の保管・整備が徹底されているため状態は良く、このような車両が不足している開発途上国からは、ぜひ使用したいという要請が多い。

社団法人日本外交協会では、各自治体やその消防本部に対して、車両廃棄予定を調査の上、要請条件に合うものを譲渡していただけるよう、協力を依頼している。譲渡を受けた車両は、引き取り、整備・修理、輸送の手配等を日本外交協会の責任において行い、要請のあった途上国に送り届けることになる。その際には、外務省と協議しながら、政府開発援助（ODA）の中の「リサイクル草の根無償資金協力」を利用し、その後5年間程度は使用してもらえるような状態で現地へ搬送している。

## 2. 要請団体

パラグアイ共和国：イスラ・ウンブ市

## 3. 供出団体

滑川ロータリークラブ（滑川市）

## 4. 譲与車両

救急車（4WD）： ニッサン VRMGE24-114610 1995年

## 5. 実施の経緯

<要請の背景>

パラグアイ共和国での消防組織・活動は企業献金や個人からの募金、それぞれの組織が行う集金活動などの資金を基に民間のボランティアの消防隊員（交代勤務）により行われている。また、消防・救急を管轄する省庁がないため、緊急車両を購入する予算はなく、車両配備は各国の援助に頼っているのが現状である。

2004年8月に首都アスンシオン市のスーパーマーケットで大火災が発生し1000名以上が死傷する事件が起こった。緊急車両の不足、患者の搬送や消火活動に迅速に対応できないことが多いという実態が浮き彫りになり、救急・消防サービスを改善することが早急に求められた。

イスラ・ウンブ市はパラグアイの南端に位置するニェンブク県の自治体で、アルゼンティンとの国境であるパラナ川に面している。インフラが十分に整っておらず、4WDの救急車を特に要請していた。

<輸送と整備について>

車輛は日本の国内で整備した上で輸出している。内部の装備点検、必要な部品の交換、外装塗り直しに加え、車輛の前面、及び側面には、日本の援助として送ったことを示す援助マークや、交差して並ぶパラグアイ共和国と日本の国旗を貼付した。パラグアイの国旗は、世界でも珍しく、表と裏の違うデザインとなっており、今回は表のみを表示した。

<セレモニーについて>

2006年5月25日にアスンシオン市役所前にて、車輛の引渡式が行われた。来賓としてパラグアイ共和国内務大臣が、そして、パラグアイ消防隊会長、消防隊員、パラグアイ日本人会連合会・小田俊春会長、アスンシオン市長、ミンガ・グアス市長、イスラ・ウンブ市長、エンカルナシオン市小児病院院長、日本大使館からは飯野建郎・特命全権大使および担当者、当協会からは海外援助担当課長の寺田が出席した。マスコミ関係者も多数集まった。

6. 輸送日程

平成 17 年 10 月	在パラグアイ日本大使館より 4WD の救急車の申請がある旨の連絡が当協会に入る。
11 月 12 月	車輛の選定・調整、輸送費見積り調査、「草の根無償資金協力」の申請手続き等
平成 18 年 1 月 19 日	イスラ・ウンブ市と、日本大使館と「草の根無償資金協力」供与契約署名。
2 月	イスラ・ウンブ市と、日本外交協会の間で、車輛譲渡に関する合意文書交換。
3 月 3 日	横浜港より出港—消防ポンプ車
4 月下旬	アスンシオン到着／通関手続き車輛引取完了
5 月 25 日	車輛引渡式

— 別添資料 —

- ・ 【地図】パラグアイ共和国
- ・ パラグアイ共和国 基本情報
- ・ 写真: 引渡しセレモニー当日の様子
- ・ 現地で掲載された新聞

—資料【地図】—

パラグアイ共和国



パラグアイ共和国 —基本情報—

(出典:外務省HP)

1.面積	40万6,752km <sup>2</sup> (日本の約1.1倍)
2.人口	607万人(2004年ECLAC)
3.首都	アスンシオン(人口約50万人)
4.人種	混血(白人と先住民)97%、欧州系2%、その他1%
5.言語	スペイン語、グアラニー語(ともに公用語)
6.宗教	主にカトリック(儒教の自由は憲法で保障)
1.主要産業	農牧業(綿花、大豆) 牧畜業(食肉)、林業
2.GNI	67.52億ドル(2004年、世銀)
3.一人当たりGNI	1,170ドル(2004年、ECLAC)
4.経済成長率	2.8%(2004年、ECLAC)
6.失業率	12.4%(2004年、国立統計局)
8.主要貿易品目	(1)輸出 大豆(世界第4位)、綿花、肉類、木材 (2)輸入 機械、原油・燃料、輸送機械、飲料・タバコ
9.主要貿易相手国	(1)輸出 ブラジル、アルゼンチン、チリ (2)輸入 ブラジル、米国、アルゼンチン
1.我が国の援助実績 (05年度までの累計)	(1)有償資金協力 1,334.6億円 (2)無償資金協力 277.6億円 (3)技術協力実績 736.5億円
2.主要援助国 (2003年DAC諸国二国間援助)	(1)日本(202百万ドル)(2)米(122百万ドル)(3)スペイン(11.7百万ドル) 1976年以来、二国間援助で日本が最大の援助国。

在パラグアイ日本大使館リサイクル草の根無償資金 (ODA)  
パラグアイ共和国 イスラ・ウンブ市

### 引渡式写真

今回のセレモニーでは、4つのプロジェクトで日本からお贈りした中古消防車4台、中古救急車3台、ブルドーザー1台、塵芥収集車1台を、パラグアイ共和国のパラグアイ消防隊(パラグアイの消防隊は民間のボランティアにより成り立っています。)/パラグアイ日本人会連合会/イスラ・ウンブ市/パラグアイ首都圏自治体連合(AMUAM)へ引き渡されました。各車両は日本の自治体から無償で頂き、その整備・輸送にかかる費用は、日本政府の「草の根無償資金協力」(政府開発援助の一つ)の支援を受け、日本の人々の善意に支えられた国際協力となっています。

平成 18 年 5 月 25 日 アスンシオン市役所前広場にて、引渡式が行われました。

1	飯野建郎・駐パラグアイ日本国特命全権大使のスピーチ	
2	引渡式の出席者の様子	
3	はしご車によるデモンストレーションを見学する皆さん	

4	<p>寄贈した救急車とイスラ・ウンブ市長と担当者の方と記念撮影</p>	
5	<p>車輛後方写真</p>	
6	<p>参考写真</p> <p>1985年に日本から贈られた1976年製のレスキュー車。 (日本から贈った際はポンプ車でしたが、現地で改造して使われています。)</p>	